**秋季研究会 第４分科会** 　組織開発とリーダーシップ

学校組織を良くしていくための「実践力」の向上について

学びあおう！

担当：福井大会研究部

|  |
| --- |
|  |

**１　目的**

学校組織の改善に向けて主体的に行動できる存在になるための「実践力」の向上を図る。

**２　開催形式 および 内容**

YouTubeライブ配信によるオンライン開催

前半は、全事研の研究テーマに基づいて、全事研福井大会研究部（以下 大会研究部）が研究していることの内容や経過について説明した。後半は、現在大会研究部が行っている実践研究の紹介を通して、学校組織（人）の行動や意識を変えていくための方法や事務職員の役割、立ち位置（リーダーシップ、コミュニケーション、協働）等について会員とともに考えた。

**３　助言者**

元　小浜市立今富小学校事務職員　岡村　あゆみ　氏

**４　内容詳細**

**(１)大会研究部の活動報告**

　〇全事研「学校事務のグランドデザイン」と第９次研究中期計画について

　〇課題解決のための戦略領域「リーダーシップ」と「組織開発」について

「学校組織を円滑に機能させていくために、事務職員がどう行動していくとよいのか」「どうリーダーシップを発揮していけるのか」について、研究部の考えを説明した。

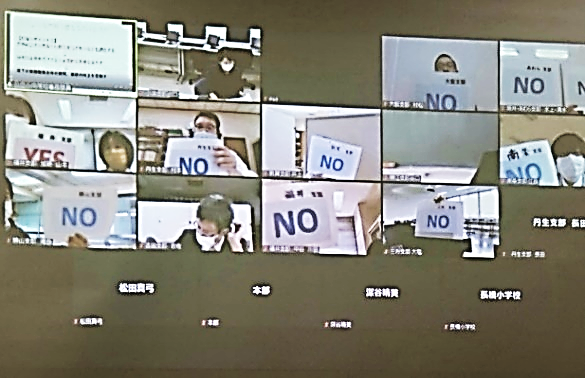
　〇大会研究部の研究経過と取組について

　事務職員がリーダーシップをとって学校組織の機能を高めるためには

1. つかさどる事務職員としての意識や覚悟
2. 実践するためのスキルや資質
3. 学校運営に積極的に参画できるための体制整備

上記の３つの要素が重要であると考え、「学校組織を変えていく方法」「リーダーシップの取り方」について、具体的な実践を通して追究していることを伝えた。

**(２) 大会研究部の実践紹介と意見交換**

　　　今年度は分科会テーマに基づき、

㋐　学習環境整備

㋑　地域連携

㋒　学校全体の業務改善

３つの観点で行っている実践研究について班ごとに紹介し、よりよい学校組織を作っていくために事務職員としてどう行動していくべきかについて各支部の理事とZoomにて意見交換を行った。また、「よりよい学校組織を作っていくためのキーワード」として「連携・協働」「情報共有」「見える化」「コミュニケーション」等を挙げ、それらについて

会員の意見をGoogleフォームで集約し、内容を適宜紹介することで意見の共有を図

った。実践や取組を行う上での悩みや課題等に対し助言者からアドバイスをいただき学校組織の改善に向けて具体的な一歩を踏み出す行動のヒントや意欲につなげた。

**【第１班】実践紹介　＜教育活動を知り学習環境整備につなげる＞**

　＜体育科の備品整備の取組＞

事務職員が、各単元でどのような備品が必要であるのかを理解し、その必要性を予算要求時に的確に説明できるよう、体育の授業者と協働し、体育科の年間指導計画に沿って必要な備品について調査を行った。

　＜理科の物品管理の取組＞

　上記体育科の取組と同様に年間指導計画に必要物品を記入し管理しようと考えたが、物品の数や種類が膨大であることや、教科書改訂があると再編しなければいけないという労力の問題等が発生した。それを管理職や理科主任、また共同実施で相談する中で、単元ごとの物品一覧が教科書出版のHPやカタログに掲載されていることを知り、活用することにした。一人でできることは限られるが、周囲に相談し、協働して進めることで道が開けることを実感した。

**各支部理事との意見交換**

**（大会研究部）Ｑ１**授業を見に行っていますか？　Yes or No

**（支部理事）　 Ａ** 「No」多数

**（大会研究部）Ｑ２**授業を見に行くことの妨げになっていることは？

**（支部理事） 　Ａ**　子どもの視線が気になる、多忙、職員室を空けられない　等

**助言者から**

「No」の意見で、職員室を空けられない、子どもの視線が気になる等の理由も理解できる。デジタル教科書が導入された際、どのように使用しているのかを確かめたくて、担任に依頼して授業参観を行った。最初は子どもたちの視線を感じたが、子どもたちの生き生きした活動につながっているのを自分の目で確かめることで、デジタル教科書の使用が授業において有効であることが実感でき、担任が要望する理由が理解できた。生きた予算執行のためには、事務職員も積極的に学習や教育活動の様子を見て勉強することが大切である。管理職や教員に目的を伝え、学校に支障のないタイミングでぜひ行動してほしい。また、年度末には整備した備品について教員に評価をしてもらい、その効果や機能性などを検証する等、常に情報をキャッチするアンテナを張っておくことも大切である。

**【第２班】実践紹介　＜学校と地域の信頼関係づくり＞**

　　　地域との信頼関係を築くため

にはまず校内で教職員間の情報

が共有されていることが必要で

ある。しかし現状としては教育

活動に必要な情報の集約方法が

確立されていないことや、担当

教員の交代などにより校内での

情報共有が難しいことが課題と

なっている。その課題を解決す

るために「活動計画書※」を作

成することとした。作成にあた

り、事務職員は活動計画書の立案や確認、共有という形で携わった。「活動計画書」を作成することにより活動の継続や活性化、地域資源の有効活用を目指すと

ともに、教職員間の連携強化や情報共有により業務改善にもつなげることを目指

した。

　　（※「活動計画書」の様式は、県事研HPきらりに掲載中）

**各支部理事との意見交換**

**（大会研究部）Ｑ　同様の取組を行っている支部や学校はありますか？**

**（支部理事） Ａ**

市内の学校で校外学習計画書、ゲストティーチャーを依頼する際の計画書の様式を統一している。当初は以前の様式で提出する先生がいたり、記入方法について何度も質問されることがあったが、繰り返し声かけを行ったり職員会議で資料を提示したりすることで、半年経過した現在、統一様式の使用が浸透してきている。また、計画書作成の過程で行事そのものの改善策を見いだすことにもつながっている。（小浜支部）

**助言者から**

取組を学校全体で定着させるための即効性のある特効薬はなく、職員会議や運営委員会等での呼びかけや利活用を繰り返すことで徐々に定着し、効率化や有用の発揮につながるものである。

教頭や教務主任との共通理解や協働も必要となってくる。様式を作成する段階から項目の選定や負担にならない活用法などを他職とともに検討しながら作成することが重要である。

**【第３班】実践紹介　＜財務分野における業務改善＞**

学校行事の運営や準備の際、必要な物品やそれらの支出会計の情報を探すのに時間と労力がかかるという現状がある。その課題を解決するため「行事経費の見える化ファイル」を作成する取組を行った。学校行事にかかる経費の情報を一つにまとめ、必要な物品や支出会計がすぐに分かるファイルを作成することで、誰でも容易に確認することができる。そのファイルは引継資料としての活用も可能である。

行事に関わる職員とともに、物品や経費についての情報整理を行うことで、情報の「見える化」を図り、スムーズな行事運営や教職員の負担軽減につなげることを目指している。

**各支部理事との意見交換**

**（大会研究部）Ｑ　経費や情報を「見える化」する取組を行っている支部や学校はありますか？**

**（支部理事） Ａ１**

勤務校で印刷コスト削減の取組を実施した。先生たちの負担になるのではという不安もあったが、メリットを見える化することや、カラー印刷が実際いくら発生しているかという具体的な金額を示すことでコスト削減につながった。（福井支部）

**（支部理事）Ａ２**

勤務校で行事会計の見える化を実施している。１年間の行事をＡ３に収まるようにして見やすくする工夫をしている。（吉田支部）

**助言者から**

経費の見える化の取組は、事務職員の強みを生かした取組である。見える化することで教員にもフィードバックができるようになる。

この取組を会計についてだけにとどめるのではなく、会計を切り口として学校運営のスリム化につなげることも期待できるのではないか。自身も行事運営を見える化するためのデータファイルを作成したが、学校全体で使用しているうちにリンクがこわれてしまい、挫折した経験もある。どのあたりまで先生たちに求めるかを決めておくことも重要である。

**５ 助言者総評**

事務職員としてのリーダーシップとは何なのか。組織開発とは。

****　開発＝まずは、すでにある資源を活用する。

それならば次々に意見が浮かんでくる。

３つの班の取組には、ともに先生との人間関係が土台にある。教職員との横のつながりを年度をまたいで縦の継続にしていく投げかけが必要である。

何事もスタートから教職員とともに作りあげていくといい。先生に負担をかけたくないと言って、一人よがりになっていないか。一緒に考え、投げかけることが組織開発につながる。

また、経験は研修を通して力量となる。事務職員がリーダーシップを発揮するには、様々な研修や経験を積んだうえで再構築すること。他の意見を聞いて、これならできると整理すること。それらを積み重ねることが、企画力・提案力・実践力といった力量につながっていく。その力量は、学校組織や子どもたちをサポートしていくために、身につけていくものであると考えてほしい。